

主 題：クリスチャン ⑤

聖書箇所：I コリント人への手紙 1章5－6節

I コリント1章をお開きください。パウロはコリントのクリスチャンたちに、神がどんなにすばらしい祝福をクリスチャンに与えてくださったのかを伝えています。ひとりひとりクリスチャンたちが神様からいただいた祝福を覚える時に、間違いなく私たちの生き方は変わってくるはずですが。私たちの神様に対する感謝というのはもっと増し加わって行きます。だからパウロはまず最初に、私たちクリスチャンがどんなにすばらしい祝福を神様からいただいているのかをコリントのクリスチャンたちに教えようとしています。10個の祝福のうち既に五つを私たちは見てきました。

1. 神に属する者 2節
2. 神によってきよめられた者 2節
3. 神からの恵みと平安をいただいた者 3節
4. 神によって救われた者 4節
5. 神によって祝福された者 5節

そして五番目に、私たちは神によってすばらしい祝福をいただいた者たちであると言って、彼は私たちに三つのことを教えてくれました。

① 「すべてにおいて」

まず一つ目に、神様はあなたのすべての必要を満たすと言われた。この地上の歩みにおいて、私たちが覚えるすべての必要を満たして下さるし、私たちが天に入るためのすべての必要を満たして下さると。

② 「ことばにおいて」——神がお喜びになることば

二つ目に彼が私たちに教えたことは、私たちのことばにおいて、私たちが神が喜ばれることばを発する者として成長していくためのすべての必要が満たされたのだということです。ということはクリスチャンである私たちのことばは変わるのです。クリスチャンである私たちのことばは救われる前とは異なるのです。コロサイ4:6で、パウロは「あなたがたのことばが、いつも親切で、塩味のきいたものであるようにしなさい。」、聞いているだけですばらしいメッセージだと思うのですが、内容を見ると、もっとすばらしいことがわかります。「塩味のきいた」ことばを発する、「塩味のきいた」というのは、「塩」という名詞と「味のきいた」、「調味された」という二つのことばでこの訳はなされています。パウロはここで、あなたのことばがまさに塩で調味されたようなことば、聞いている人々にとって有益なことばとなるようにと教えているのです。

あなたが口にすることばによって人々が祝されるのです。あなたが口にすることばによって聞いている者たちが恵みをいただくのです。そういう人へと神はあなたを変えてくださったのです。ですからここで、その味の「きいたもの」という動詞をパウロは完了形という時制を使っています。というのはもう既にそれは起こったことであって、その結果が今も継続しているのです。クリスチャンである私たちは、我々のことばが人々を祝福する、人々に祝福をもたらすようなことばを発する者に変えられ、今もそのような状態が続いていると言うのです。しかもこの動詞を受け身で書いています。そのような人に私たちが努力をして行って行くというよりも、神が私たちのうちに働き、神ご自身がそういう人に変えて行ってくださると言うのです。だから、このようなことばによる働きが可能になったと言うことです。神様はすごいことをしてくださったのです。我々は救われてクリスチャンになり、天に国籍を持つと喜んでいますが、祝福はそれだけではないのです。神様は我々クリスチャンのことばをこういうふうに使って、人々に祝福をもたらすような語り部として私たちに使ってください。あなたはそのひとりなのです。そういう働き人として神はあなたを用いてくださる。だからあなたはクリスチャンなのです。

神が必要を満たしてくれたのはことばだけではありませんでした。私たちが信仰者として日々の生活を歩んで行くために必要なことは、いつも神のみこころを見出すことです。何が神の前に正しいことであり、何が神の前に喜ばれることであり、何が神のみこころなのか。感謝なことに神はあなたが信仰者として歩んで行く時に、しっかりとみこころを見出して、そのみこころに従って行くための必要をすべて満たしたと言うのです。ということは我々クリスチャンは、神のみこころに従って生きて行くことができる者へと変わったのです。これがクリスチャンです。

こういう祝福を神様は私たちに与えてくださったと、パウロは5節で我々に教えてくれました。私たちは大いなる祝福をいただいた者です。ペテロはII ペテロ1:3でこう言います。「私たちをご自身の栄光と徳によってお召しになった方を私たちが知ったことによって、主イエスの、神としての御力は、いのちと敬虔に関するすべてのことを私たちに与えるからです。」、「私たちをご自身の栄光と徳によってお召しになった方を私たちが知ったことによって、」、つまり救いです。救われた者たちに神様は何をするかという、「主イエスの、神としての御力(神様のなさるわざ)は、いのちと敬虔に関するすべてのことを私たちに与える」、神様は我々の救いに必要なことをすべて与えてくれるだけではない。「敬虔

に関する」こと、つまり地上にあって神様に従う者として、クリスチャンとして生きていくためのあらゆる必要を備えてくれていると、ペテロは教えてくれているのです。

だから、信仰者の皆さん、どうぞ神様の約束に立って生きてください。神はあなたをこんな人に変えると言われた。そのプロセスはもう始まっているのです。みことばをごらんになって、神様の約束をごらんになった時に、皆さんは大きな希望を持ってください。神様はそういう人にあなたを変えと言われ、その働きはもう既にあなたのうちに始まっているからです。そうやって生きることができるのです。神は私をこんな人に変えて行ってくれる、神が喜んでくださる人に私は成長して行くことができるのです。

こういうクリスチャンとして我々が成長していくために、大切な四つのことをアドバイスします。

・ 神との時間

一つ目はあなたが成長するためには絶対に神様との時間が必要なのです。忙しくなればなるほど、神様との時間がだんだんなくなっていきます。だから、喜びがなくなって行くのです、だから力がなくなって行くのです。あなたがこのような神様の祝福を本当に喜びながら、主によって変えられることを期待しながら、成長することを望みながら主の栄光を現わしていくために必要なのは、まずあなた自身が神様との時間を取ることです。

・ 神のみことばを実践すること

二つ目に言えることは、みことばの実践です。余りにも多くのクリスチャンがみことばを聞くだけで終わってしまっているのです。みことばは知っているのです。でも実践できていないのです。だから生活が変わって来ないのです。みことばが何度も私たちに教えるように、みことばはただ聞くだけであってはならない。みことばを実践する人に、行なう人になりなさい。あなたが成長するために必要なのは聞いたみことばを実践することです。感謝なことに神がそのわざを助けてくださる。

・ 責任を共有できる兄弟の必要——主に従う者として成長するために助け合える兄弟

三つ目にあなたが信仰者として生きて行くための責任を共有できる兄弟の必要です。残念ながら私たちはひとりでは本当に信仰者としていつも強く歩んで行けるかという、そうではないのです。だから兄弟が要るのです、姉妹が要るのです。励まし合いながら、助け合いながら、祈り合いながら、歩んで行くことが必要なのです。すぐにそういう人を見つけることです。祈り合って、一緒に神様のみこころに従って行こうと、一緒に祈り合いながら、励まし合いながら、主に喜ばれることをなして行こう、そういう友人が必要です。そういう人たちがあなたの周りにいます。

・ 心の吟味

そして最後、四つ目に言えることは、常に自分の心を吟味することです。私は神の前に正しいかどうかです。私たちは何をしているかということに注目が行ってしまうのですが、大切なのは我々の心がどうかです。奉仕をしても心が正しくなかったら、いつか行き詰ってきます。働きをしても、礼拝に来ていても、何かの集会に参加していても心が伴っていないければ、考えていることはいつも早く終わらないかな、次に何をしようかなと。神様がそういう心の伴っていない働きをお喜びにならないのは皆さんもよくご存じでしょう？自分の心が正しいかどうか、心を吟味しなければいけない。

神はあなたがクリスチャンとして歩んで行くためのすべての必要を備えてくださった。日々の生活のすべても、あなたがことばにおいて成長するためのすべても、あなたが常にみこころを求めて、そしてみこころを見出して、みこころに従って行くためのすべての必要をあなたに与えてくださった。そのようにパウロは私たち教えてくれました。

6. 神の真理をあかしする者 6節

さて、六つ目です。6節をごらんください。「それは、キリストについてのあかしが、あなたがたの中で確かになったからで、」とあります。六つ目の祝福は、私たちは神の真理をあかしする者になったということです。それが私たちに与えられたすばらしい祝福であるとパウロは言うわけです。すばらしい神様を人々にあかしすることができる、神によってすばらしい救いをいただいただけではなくて、その救いを、その救い主を人々に宣べ伝えるという祝福を私たちクリスチャンはいただいたのだと、パウロはこの6節で言うのです。

6節の最初、「それは、キリストについてのあかしが」とあります。最初にお話したように、パウロはここで神のすばらしさを人々にあかしするという祝福をいただいたと言います。神様のすばらしさを人々に伝えるのですが、二つの方法があります。そのことをこれから見て行くのですが、一つ目は、ことばによって伝えるという方法であり、もう一つは生き方によって伝えるという方法。そのことをパウロはここで教えてくれます。

① ことばによるあかし:「キリストについてのあかし」

まず一つ目のことばによるあかしを見て行きましょう。

6節の最初のところに「キリストについてのあかしが」と記されていました。この「あかし」ということばは「証明」、「立証する」、また「真実を述べる」という意味です。実は新約聖書の中にこのことばは19回出て来ます。ここで「あかし」と訳されていますが、このことばの語源となっているのは、「証人」、あかしをする人です。この語源となっていることばは新約聖書の中に35回出て来ています。その中で多分皆さんが一番よくご存じの箇所は、次の箇所だ

と思います。「聖霊があなたがたの上に臨まれるとき、あなたがたは力を受けます。そして、エルサレム、ユダヤとサマリアの全土、および地の果てにまで、わたしの証人となります。」(使徒1:8)、このことばです。クリスチャンというのは、この神様のすばらしさを人々に伝えるあかしびと、証人なのです。どんなに神様がすばらしいお方なのか。この方の祝福がどんなにすばらしいのかを人々に伝えるもの、それが私たちクリスチャンなのです。

(1) 救われてすぐ：イエスが神であり、キリスト——救世主であること！

実は、パウロはそのようにして、キリストのすばらしさ、偉大さを伝え続けています。使徒の働きの中です。まずパウロが信仰をいただいた後、どのようなメッセージを語ったのか。使徒9:20に「そしてただちに、諸会堂で」とあります。この話をする前に少しだけ背景をお話ししますと、パウロはクリスチャンを迫害するためにダマスコに向かっていた。より多くのクリスチャンを捕えて、彼らを迫害するためにです。パウロはクリスチャンたちは神に逆らっていると確信していました。そこで、クリスチャンたちを迫害しようとしてダマスコに向かっていた道中であって、復活のイエス・キリストにお会いするわけです。そして、ダマスコに行ったパウロは、その後、アナニヤというひとりの神様から遣わされた人物と出会って、主イエス・キリストを信じて、次のようなことを語り始めるのです。「そしてただちに」、ダマスコに行って信仰を持って、数日の間とありますが、実際には恐らく三日たって、「諸会堂でイエスは神の子であると宣べ伝え始めた。:21 これを聞いた人々はみな、驚いてこう言った。『この人はエルサレムで、この御名を呼ぶ者たちを滅ぼした者ではありませんか。ここへやって来たのも、彼らを縛って、祭司長たちのところへ引いて行くためではないのですか。』:22 しかしパウロは(この当時はパウロではなくてまだサウロと呼ばれていました)ますます力を増し、イエスがキリストであることを証明して、ダマスコに住むユダヤ人たちをうろたえさせた。」とあります。人々が驚いた様子が伺えます。一体この人物に何が起こったのだろうとみんな思ったのです。しかもパウロが語ったことは、「イエスは神の子」つまり神であるということでした。そして、22節にあったように「イエスがキリスト」、つまり救い主であるということを証明したのです。パウロが信仰に至った後、まずイエスが神であり、イエスはキリストつまり救世主なのだというメッセージを語りました。そのことがこの9章の中に記されています。

(2) テサロニケやアテネで：イエスがキリスト——救世主であること！

17章では、パウロはギリシャの町を訪問しています。最初にテサロニケの町を訪問した後、アテネを訪問しています。その時の様子が、使徒17:2-3に「:2 パウロはいつもしているように、会堂にはいつて行って、三つの安息日にわたり、聖書に基づいて彼らと論じた。:3 そして、キリストは苦しみを受け、死者の中からよみがえらなければならないことを説明し、また論証して、『私があなたがたに伝えているこのイエスこそ、キリストなのです。』と云った。」と出て来ます。ギリシャ人の町に行って、テサロニケでもアテネでも、パウロが語ったメッセージは、イエスがキリスト、救世主だということでした。対象がだれであろうとパウロのメッセージは変わっていません。きょうのテキストの中で、「キリストについてのあかしが」とあります。パウロが語ったことはキリストについてだったのです。キリストが一体だれかということをはっきりさせたのです。救われてすぐにキリストは神であり、救世主であるということをはっきりしました。

(3) 指導者たちの前で：

またパウロは指導者たちの前に立っています。その中のひとりにはアグリッパ王でした。使徒26:22-23に出て来ます。「:22 こうして、私はこの日に至るまで神の助けを受け、堅く立って、小さい者にも大きい者にもあかしをしているのです。そして、預言者たちやモーセが、後に起こるはずだと語ったこと以外は何も話しませんでした。:23 すなわち、キリストは苦しみを受けること、また、死者の中からの復活によって、この民と異邦人ともに最初に光を宣べ伝える、ということです。』、こうしてアグリッパ王の前に立った時に、パウロはこんなメッセージを語りました。パウロが語っているメッセージは、異端ではなくて旧約聖書の教えに基づくものであり、キリストの死と復活による救いでした。つまりキリストがだれなのか、あのイエスこそがキリストであるということを語ったわけです。22節から、「預言者たちやモーセが、後に起こるはずだと語ったこと以外は」、つまりパウロは、旧約聖書の預言者たちが預言したことを語ったと言っています。というのはパウロの教えが異端であると語る者たちが多かったので、そうではないことを明らかにするのです。そしてパウロは「キリストは苦しみを受けること、また、死者の中からの復活によって」、つまりこの救世主は、約束の救世主、預言者たちが預言していた約束の救世主は「苦しみを受けること」、つまり死ぬことであり、そして「死者の中からの復活」する方であると言うのです。そしてその死と復活によって、「この民と」、つまりイスラエルと「異邦人ともに最初に光を宣べ伝える」と。この救世主は死と復活によって、すべての人々に救いの「光を宣べ伝える」お方だと。ですから、こうしてパウロはアグリッパ王の前でこのイエス・キリストが約束の救世主だということをはっきり示した。

使徒22:14-15で、パウロはエルサレムで捕えられます。その時に、千人隊長の許可をもらって群衆の前で「『私たちの先祖の神は、あなたにみこころを知らせ、義なる方を見させ、その方の口から御声を聞かせようとお定めになったのです。』と、パウロは自分の救いの話をするのです。今読んだところはアナニヤがパウロに語ったことです。アナニヤという神に仕える人がパウロに何を言ったかという、「私たちの先祖の神は、あなたに(パウロに神の)みこころを知らせ、義なる方(神)を見させ、」、そして「その方(神)の口から御声を聞かせよう(神が)お定めになった」と。つまりパウロがダマスコに向かっている途中に経験したことはすべて神のご計画であり、そしてそこでパウロ自

身はその神とお会いし、そしてその方のことばを聞いたのだ。パウロはだれとお会いしたのか——。復活の主、イエス・キリストでした。この彼自身がアナニヤから聞いたメッセージをパウロは群衆に伝えました。何を言いたかったのか——。このイエス・キリストこそが旧約の預言者たちが約束していた約束の救い主だ、キリストだということを群衆の前で明らかにするのです。

(4) ピシデヤのアンテオケで: 旧約からイエスが約束の救い主、キリストであることを教えた

ピシデヤのアンテオケというところにパウロが訪問した時です。これは第一次宣教旅行の時ですが、このアンテオケというのは宣教を行なう中心であったアンテオケとは違います。現在のトルコという国を思い描いていただいてどちらかという南西の方向にあります。エーゲ海に面したところではなく内陸です。そこで多くのユダヤ人を前にパウロがメッセージを語るのですが、そこでパウロは旧約聖書からイエスが約束の救い主、キリストであることを明らかにします。使徒13:13に今お話したことが記されていますが、パウロは多くのユダヤ人たちを前にして、23節「神は、このダビデの子孫から、約束に従って、イスラエルに救い主イエスをお送りになりました。」と言います。これまでパウロはユダヤ人たちの前でずっとイスラエルの歴史を話すのです。その上で、「神は、このダビデの子孫から」、つまり預言どおりに「イスラエルに救い主イエスをお送りに」なったと。パウロはとても明確にイエスがだれであるかを人々に伝えていきます。救い主、つまりキリストであると。しかもこうしてダビデの話を引き合いに出して、この方こそが旧約聖書の中に預言されていた約束の救世主であるということを明確に語っています。

また、27節「エルサレムに住む人々とその指導者たちは、このイエスを認めず、また安息日ごとに読まれる預言者のことばを理解せず、イエスを罪に定めて、その預言を成就させてしまいました。:28 そして、死罪に当たる何の理由も見いだせなかったのに、イエスを殺すことをピラトに強要したのです。:29 こうして、イエスについて書いてあることを全部成し終えて後、イエスを十字架から取り降ろして墓の中に納めました。」、十字架の話です。人々がイエス・キリストを十字架につけた話をするわけです。「:30 しかし、神はこの方を死者の中からよみがえらせたのです。:31 イエスは、ご自分といっしょにガリラヤからエルサレムに上った人たちに、幾日もお現われになりました。きょう、その人たちがこの民に対してイエスの証人となっています。」と。イエスがよみがえったのだという話をしました。そして38節「ですから、兄弟たち。あなたがたに罪の赦しが宣べられているのはこの方によるということ、よく知っておいてください。」と。なぜこんな話をしたのかというと、十字架で死なれ三日後によみがえってきたイエスによって罪の赦しを与えられる。この方こそが救い主だと語っています。今私たちはパウロの語ったメッセージを見て来たのですが、まさに I コリント1:6で教えたように、キリストについて彼はあかしをしています。彼のメッセージはすべてイエスがだれであるかでした。対象がだれであろうと、彼こそが約束の救世主であり、彼だけが私たちを罪から救うことができるお方であること、そのメッセージをパウロは語り続けたのです。パウロは、そのメッセージこそが我々クリスチャンに神がゆだねられたメッセージであり、そのメッセージを我々クリスチャンは語り続けていくのだと言うわけです。

(5) コリント教会への手紙で: 神の福音を宣べ伝えた

この I コリント15章を見ると、特に彼は福音のメッセージについて教えています。「最も大切なこととして(あなたがたに)伝えたのは」と言います。キリストは我々の罪のために死なれて、そして約束どおり三日後によみがえって来られたと。メッセージは変わっていません。だれの前でも、指導者、アグリッパ王の前であっても、パウロは同じメッセージを語り続けたのです。イエス・キリストが救い主であり、イエス・キリストによって、信じるすべての人の罪は完全に赦されるのだと。この方こそが与えられた救い主であると。そのことを彼はあかし続けました。キリストについてのあかし、キリストが一体だれであるのか、そのあかしをパウロは確かにことばをもってあかし続けました。

(6) 神ご自身のあかし

もう一つ付け加えたいのは、父なる神がこのイエス・キリストのことを何と言っているかです。I ヨハネ5:6「:6 このイエス・キリストは、水と血とによって来られた方です。ただ水によってだけでなく、水と血とによって来られたのです。そして、あかしをする方は御霊です。御霊は真理だからです。」、何の話をしているのかというと、「:7 あかしするものが三つあります。:8 御霊と水と血です。この三つが一つとなるのです。」。父なる神はイエス・キリストが一体だれなのかを三つのあかしをもって明らかにしたと言っているのです。その一つが「水」であり、もう一つが「血」であり、もう一つは「御霊」なのだ。父なる神がこれらによってイエスがだれなのかを明らかにし、これが父なる神のイエスに対するあかしなのです。

さて、この「水」というのは、イエスの水によるバプテスマの話です。イエス様がヨハネのバプテスマから水のバプテスマをお受けになりました。なぜそれが父なる神のあかしなのか——。あの状況を思い出すと、イエス・キリストがバプテスマをお受けになった時に、御霊が鳩のように天から下ってこの人の上にとどまった。そして天から「これは、わたしの愛する子、わたしはこれを喜ぶ。」と声がしました。そのことによって父なる神がこのイエスがだれなのかを明らかにしたのです。それに関してバプテスマのヨハネがこう言っています。ヨハネ1:29「その翌日、ヨハネは自分のほうにイエスが来られるのを見て言った。『見よ、世の罪を取り除く神の小羊。』」、バプテスマのヨハネはイエスが自分のもとにやって来るのを見て、そのように言いました。まさにこの方こそ世の、つまり私たち罪人の罪をぬぐい去ってくださるお方だ。私たちの罪をきよめてくださるために送られた神様のいけにえであると。その後

こう言うのです。「:30 私が「私のあとから来る人がある。その方は私にまさる方である。私より先におられたからだ。」と言ったのは、この方のことです。:31 私もこの方を知りませんでした。しかし、この方がイスラエルに明らかにされるために、私は来て、水でバプテスマを授けているのです。』:32 またヨハネは証言して言った。『御霊が鳩のように天から下って、この方の上にとどまられるのを私は見ました。:33 私もこの方を知りませんでした。しかし、水でバプテスマを授けさせるために私を遣わされた方(つまり、神)が、私に言われました。「聖霊がある方の上を下って、その上にとどまられるのがあなたに見えたなら、その方こそ、聖霊によってバプテスマを授ける方である。」:34 私はそれを見たのです。それで、この方が神の子であると証言しているのです。』、これがバプテスマのヨハネの証言です。水のバプテスマを授けた時に、御霊が彼の上を下って来たのを見て、ヨハネのバプテスマは、この方こそが神の約束しておられた約束の救世主だと確信したのです。私たちの罪を贖うために人としてこの世に来てくださった神であると確信し、そのことを告白したのです。ですから、まず最初の「水」というのは、このヨハネによるバプテスマの話です。それによって父なる神がイエスがだれであるかを明らかにしたのです。

ではこの「血」とは何か——。十字架の話です。イエス様は十字架によって身代わりに死なれました。その死によって主イエス・キリストがこの世に来られた目的が完成したのです。彼は救世主として来られ、そしてあなたや私の罪を赦すために、十字架で身代わりとなって死んでくださった。だから十字架の上でイエス様がすべては「完了した。」と言われた。キリストとして来られた方が、救い主として来られた方が、その働きを終えられたのです。ですから私たちはあの十字架を見た時に、百人隊長ではないですが、この方はまさに神の子であったと。まさにこの方は神であったと言ったわけです。

そして最後に「御霊」と言っています。聖霊なる神様です。イエス・キリストが救い主であることを我々はどのように悟りました？ 何度もメッセージを聞いていても悟らなかった私たちが、確かにこの方は救い主であり、そして私は罪人であり、私には救いが必要であるということを確認したのは、メッセンジャーがすばらしかったのではないのです。御霊が、聖霊なる神があなたのうちに働いてくださり、そのあかしをあなたが理解できるように働いてくださった。だからあなたはこの救いに与ったのです。だから父なる神が何をされたかという、「水」によって、「血」によって、「御霊」によってこのイエスこそが世に遣わされた救世主であることをあかしたのです。パウロが確信を持って語っただけではない、父なる神ご自身もイエスが一体だれであるかということ明らかにしてくださいました。

◎ 結論:「我々クリスチャンは、キリストの証人。救い主キリストを宣べ伝える者！」

私たちクリスチャンというのは、このイエス・キリストのことについて人々にあかしをする証人です。この主イエス・キリストが一体だれなのか、一体この方が私たちのために何をしてくださったのか。そのことを人々の前に宣べ伝える者です。私たちの語るべきメッセージはそれです。パウロのことばを借りれば、「:22 ユダヤ人はしるしを要求し、ギリシヤ人は知恵を追求します。:23 しかし、私たちは十字架につけられたキリストを宣べ伝えるのです。」(Iコリント1:22-23)、パウロが言ったことは、私が伝えるメッセージはただ一つである、このイエス・キリストを宣べ伝えろ。このイエス・キリストがどんなにすばらしい神であり、どんなにすばらしい救い主であるかを私は伝えると。そして今我々はそのことを見て来たのです。確かにパウロはキリストだけを伝えたのです。

彼は世の中の知恵を用いることもできました。非常に知恵がありました。知識がありました。もっといろいろな話をすることもできたでしょう。しかしパウロはキリストを宣べ伝えました。それが最も大切なメッセージだからです。そしてこの主イエス・キリストのことを宣べ伝えるという働きを彼は重荷とは感じていませんでした。かえってこの働きをパウロ自身こんなふう喜んでいました。「私は、私を強くくださる私たちの主キリスト・イエスに感謝をささげています。なぜなら、キリストは、私をこの務めに任命して、私を忠実な者と認めてくださったからです。」、何の務めか——。福音を伝える、イエス・キリストを伝えるという務めです。神様が私にこの務めをくださったということパウロは知っていました。私をキリストによって救ってくださっただけでなく、このキリストのすばらしい救いを人々に伝えるという務めをくださった。そしてその務めを実践するために、神様は必要な助けも備えてくださった。ですから私は、福音を語らなければいけないではなくて、イエス様のことを伝えなければいけないのではなくて、非常にそのことを感謝していると。こんな私に、このすばらしい務めを与えてくださった。

少し皆さんにお聞きしなければいけない。イエス・キリストのこのすばらしい救いというものを人々に伝えること、を皆さんは喜んでおられます？ イエス様の救いを人々に伝えることを感謝しておられます？ イエス・キリスト以外に我々罪人が救われるすべはどこにもないのです。神があなたや私を、そしてすべての人々を罪から救うために備えてくださった方はイエス・キリストだけなのです。あなたはその方によって救われ、クリスチャンとされました。しかし、あなたの周りにはそうでない人たちがあふれています。どんな罪人でも赦されるのです。その罪が完全にきよめられて神の子どもとされるのです。そのメッセージを神様は私たちに託してくださいました。

聖歌525番に「語りつげばや、主なるイエスとそのみさかえとその恵みを。我が魂を満たすものはほかになきことを悟り得たり。語りつげばや、語るごとに心満ち足り楽しさ増す。この救い主知らぬ者に、我呼びかけてあかしせばや。語りつげばや、見よ、巷は飢え渴きたる人に満ちり。こはげに古き教えなれど、日々新しき歌とぞなる」とあります。コーラスはこう言っています。「語りつげばや、世を去る日まで。語りつげばや、イエスの愛を」と。私たちはこんな歌を賛美します。イエス様だけが私の心を満たしてください。そのことを知った私たちは、そのこと

を語って行くことです。パウロはそれを喜んでしました。我々クリスチャンというのは、この神様のすばらしい救いを宣べ伝える者であって、ことばで人々にそれを語る者です。我々が考えなければいけないのは、私たちは本当にこのすばらしい救いをことばでもって語っているかどうかです。

② 生き方によるあかし:「あなたがたの中で」/「確かになったから」

そしてきょうのテキストに戻っていただくと、パウロは二つ目に私たちの行ないの話をします。我々の生き方の話です。というのは6節を見ていただきますと、キリストについてのあかしをパウロたちはしていたし、それが我々クリスチャンに与えられた特権だというだけではない。「キリストについてのあかしが、あなたがたの中で確かになったからで、」と書いてあります。「確かになった」、ここで使われていることばは「明白となった」とか、「確認される」という意味です。何の話をしているかという、神様の真理——神様が言われたことが真理であること、またこの福音のメッセージが真理であるということとどうやって私たちは人々の前で証明するかです。パウロがこのメッセージを送ったコリントの町というのは偶像にあふれています。ちょうど私たちの日本と同じように、いろいろな異教にあふれています。恐らく多くの人々は自分たちの信じているものが正しいと言っていたでしょう。そういう中で、このイエス・キリストこそがまことの救い主であり、この福音のメッセージこそが真理であるということとどうやって人々に証明して行くのかです。パウロが言ったことは、それはあなたたちの生き方をもってだと。だからパウロはキリストについてのあかしがあなたがたの中で確かになった、あなたがたの中で明白になったと。つまりあなたたちを見る人々が、この人たちの言っていることは真実であると、この人たちが語っているキリストこそが本当である。この人たちの言っている救いこそが本当であるということ、彼らはあなたを通して見ると言うのです。

イエス様は「あなたがたは真理を知り、真理はあなたがたを自由にします。」と、ヨハネ8:32で言われました。それがクリスチャンです。我々は神の真理を知ることによって、罪の永遠のさばきからの自由を得たのです。我々クリスチャンは、今、永遠の滅びを恐れながら生きているのかというと、我々は永遠の滅びから完全に自由とされたのでしょうか？同時に私たちクリスチャンはかつての罪の束縛から、罪の力から自由とされたのでしょうか？問題はこの神様の言われていることが真実であるということとどうやって人々の前で証明するかです。もし我々がその自由を楽しんでなければ……。パウロの言っていることは、神様が私たちのうちに与えてくださったこの救いというものが本物であることを人々にあかしするためには、我々クリスチャンがどう生きているのか。それにすべてかかっていると言うのです。先ほどもお話したように、我々は口で幾らでも言うことができます。問題はどのように私たちが生きているかどうかです。

「救い」:救われた私たちクリスチャン

・「罪の赦し」

救いについて考えると、救いというのは罪の赦しです。我々の罪は赦されたのです。問題は私たちがこの罪の赦しをいただいたことを心から喜び、日々感謝しているかどうかです。神様、私を罪から救ってくださり、永遠のいのちを与えてくださって本当に感謝しますと、皆さんは感謝し、喜んで生きていますか？

・「永遠の保証」

我々は、救いは絶対に失われることがないと永遠の保証をいただきました。私は、きょう死んでも確実に天国に行ける、天に国籍を持っていると。それを私たちが喜びながら、感謝しながら生きているかどうかです。希望のない人々と同じように死について恐れていませんか？

・「新生」

救いというのは新しく生まれ変わる——新生です。かつての私たちは死んで、私たちは新しく生まれ変わったのです。つまり新しい目的を持ち、新しい目標を持って生きる人生が始まったのです。そんなふうには生きていますか？私たちが神に喜ばれることを考えながらそのように生きようとしています。そんなふうにはみんなが生きているかどうかです。

・「神の祝福」

まだ私たちはこの世のものにとらわれていませんか？救われた者たちは神様から大変な祝福をいただきました。その祝福を私たち信仰者ひとりひとりが楽しみ、感謝しながら生きているかどうかです。あなたの周りの家族であったり、友人であったり、ご近所の皆さんはあなたが言っていることが本当であるかどうか見ているのです。イエス・キリストによる救いと私たちが言うならば、本当にイエス・キリストによって救いを得ることができるのか見ているのです。

パウロの救いのあかし:使徒9:18~

先ほど我々は使徒の働き9章を見て来ました。パウロがダマスコに向かっている途中に、天からこんな声がありました。「サウロ、サウロ。なぜわたしを迫害するのか。」と。その時にパウロは、「主よ。あなたはどなたですか。」と言っています。この時、彼はこの声の主がだれがわかっていません。「主」ということばを使ったのは、その語り主を尊敬してそのように言ったのです。そしてこのような声があります。「あなたが迫害しているイエスである。」と。そのメッセージを聞いた時に、彼自身は自分が間違っただけで来たことに気づかされるのです。イエス・キリストを信じる者を迫害することが神に喜ばれると思っていた。ところがそうではなく、迫害していたイエス・キリストこそがまことの神で

あり、救い主であることがわかり、その後、彼はダマスコへと引いて行かれました。そこでアナニヤがやって来るまで、三日間あったことが記されています。恐らく彼は三日間断食をしていたのでしょう。つまり食べることができなかった。自分が神に喜ばれると思っていたことが実は神を悲しませることであり、神に対する大きな罪であることを気づかされたパウロは、自責の念や悔恨の念に駆られていたことでしょう。私は何と愚かなことをした、何と罪深いことをしたのだと、食事を摂ることもできませんでした。

そしてアナニヤがやって来るのです。パウロは罪の赦しをいただきました。その後彼は、神の命令に従ってバプテスマを受けたのです。(使徒10章)また神の家族の交わりに入れています。そして、彼は神の救いを宣べ伝え始めました。人々の前でこのイエス・キリストこそが唯一の救い主であること、この福音のメッセージこそが罪人である私たちに対する唯一の希望であることを語りました。ペテロのことばを借りれば、「この方以外には、だれによっても救いはありません。世界中でこの御名のほかには、私たちが救われるべき名としては、どのような名も、人間に与えられていないからです。」、使徒4:12です。パウロは確信したのです。イエス・キリストによって救われたパウロはこの方だけが救い主であることを世に伝え始めました。彼の生き方が変わりました。人々は信じることができなかつた。クリスチャンを迫害していた人物がイエス・キリストを宣べ伝える者になった。エルサレムに行っても人々は彼を受け入れようとはしませんでした。信じることはできなかつた。しかしパウロは生まれ変わったのです。そして弟子たちが彼を受け入れました。

神によって救われた者たちは、神によって変えられて行くのです。彼らはことばだけでなく彼らの生き方をもって、このキリストこそが唯一の神であり、救い主であることを伝える者へと生まれ変わったのです。私たちの日本も宗教にあふれた国です。イエス・キリストの救いは宗教ではなくて真理であると、どうやって人々に納得させます？自分の教えが真理であると思い込んで多くの人々の中であって、なぜこの聖書の教えだけが真理であると言い切れるのでしょうか。パウロはその質問に対してこう答えます。それはあなたを生まれ変わらせてくださった神様のことを、あなたの生まれ変わった生き方で明らかにすることによって、人々は気づくと言うのです。あなたの神こそが本当の神だと。信仰者の皆さん、あなたはその目的のために、今、地上に置かれているのです。あなたの神が本当の神であることを、このイエス・キリストこそが唯一の救い主であることを世に伝えるために私たちは救われ、この世に置かれているのです。語りなさい、福音を。そして福音を生きなさいと言うのです。

クリスチャンは素晴らしい祝福を神様からいただきました。その祝福をいただいた者として、その祝福を下された神様を世に明らかにして行く者たちです。我々はその特権に与ったのです。そのメッセージこそ私たちの愛する者たちが聞かなければならないメッセージです。聞きたくないメッセージでしょう。でも彼らが聞かなければならないメッセージです。そのメッセージを神様はあなたに託しています。こんな祝福を私たちに下さったのです。この神について語るのです。この神による救いを語るのです。この1週間、いろいろなところに出て行きましょう。神の助けをいただきながら語って行きましょう。イエス・キリストこそが救い主であると。この方によって罪の赦しが与えられることを。そのように生きる者たち、その人たちのことをクリスチャンだとみことばは教えてくれます。

《考えましょう》

1. クリスチャンは主から語るべきメッセージを託されました。それはどのようなメッセージでしょう？
2. 主は自分の考えや人間の知恵を語ることを命じられませんでした。それはどうしてだと思いますか？
3. 人間の知恵によって、罪人に救いをもたらすことは可能でしょうか？その理由は何ですか？
4. クリスチャンにとって「生き方」が大切なのはどうしてでしょう？